

寅十一月廿四日

越前守殿御直伊賀門守江御渡

評定所一座江

男女密通、并夫婦相談之上、猥ニ墮胎爲致候もの御仕置之儀、

其身之勝手等を謀、猥ニ墮胎爲致候もの、男女共江戸拾里四方追放、

一右を存ながら、取計候醫師之類、江戸拂、

右之通被相心得、尤其節之始末次第、輕重之儀は、事實相當之處、厚勘辨致し、御仕置申付候様可被致候、

十一月

〔市中取締類集九ノ四十五〕天保十三年六月墮胎御禁止一件

寅七月六日

越前守殿江荒井甚之丞を以上ル、同十一月廿八日承付候様、同人を以左衛門尉江御下承付致し返上、

市中女醫師之儀ニ付奉伺候書付、

書面伺之通相心得別紙申渡案之内御掛紙之通相直申渡候様可仕旨被仰渡奉承知候、

寅十一月廿八日

鳥居甲斐守

町奉行

市中ニ有之候女醫師と申もの、専ら墮胎之儀を生産と致し候儀、不仁之所業ニ付、以來急渡御禁止有之可然哉、尤是迄女醫師之名目に而押出、墮胎之方をのみ生産と致し候儀とも不相聞、一體難產等之砌、其兒を殺し、其母を助候時宜も有之、是又不得止より出候儀、嚴敷御禁止ニ相成候ハバ、却而非命之死を遂候もの多く可相成哉、全右ニ而男女淫奔野合之根本を斷チ候と申ニも有